

【国内事例】 八尾市立病院維持管理・運営事業

□ 事業概要

発注者	八尾市			
事業内容の概略	事業地:大阪府八尾市龍華町1-3-1 敷地面積:14,999.98㎡ 建物面積(延床面積):39,280.07㎡ 病床数:380床、診療科目:16診療科			
事業期間	約16年(維持管理・運営のみ)			
事業形態	・BOT方式(一部BTO方式) ・サービス購入型(利便施設等一部に独立採算あり)			
事業費用	VFM:特定事業選定時6.3%、落札時12.7% 契約金額:51,813,061,000円(消費税抜き)			
官民の業務分担	官:病院施設の設計・建設業務、主な医療機器類の整備(開院時のみ)、一部給食業務の運営 民:病院施設等の一部整備業務、建設・設備維持管理業務、病院運営業務(政令8業務)、その他病院運営業務			
スケジュール	実施方針公表	2002年9月10日	落札者決定	2003年7月16日
	特定事業選定	2002年10月30日	契約締結	2004年3月26日
	募集要項公表	2002年12月11日	供用開始	2004年5月1日

【国内事例】 八尾市立病院維持管理・運営事業

□ 事業の特徴

■施設整備業務を伴わない病院の維持管理・運営事業PFI

- 設計・建設は市が従来型で行い、PFI事業者は施設の維持管理及び医療関連サービス等の運営業務を行う事業である。事業者が使用する設備、什器・備品、消耗品等は事業者が所有し、事業期間終了後、市に所有権を移転する。病院施設の建設業務を伴わず、維持管理や電子カルテを含む総合医療情報システムの運用・保守、医療周辺サービス等の運営に重点を置いた事業である。
- 八尾市立病院は昭和25年に市民病院として開設されたが、施設の狭隘・老朽化が著しく、診療報酬改定や薬価改定等医療を取り巻く社会環境の変化、医療の高度化・多様化による医療ニーズの変化への対応が迫られ、新病院の整備検討が進められていた。
- 先行して施設の設計・建設は従来型で整備が進んでいたが、医療情報システムの整備・運用に係るコストの削減を目的としてPFIの導入が検討されることとなり、さらに病院全体の効率化を検討する中で、医療周辺サービス業務も含めてPFI事業の対象範囲とされた。

■需要変動リスクを官民で分担

- サービス対価は、固定額を事業期間にわたり支払う「固定払い」と実需要数等を勘案して支払われる額が変動する「需要変動払い」により構成され、市と民間事業者の間で需要変動リスクを分担するスキームが取り入れられた。

【国内事例】 八尾市立病院維持管理・運営事業

□ メリット

■患者サービスの質的向上の実現

- PFIの導入により、旧病院に比し、病院給食メニューの選択制の実現、ホスピタリティ委員会設置による患者満足度向上への取り組み、院内行事の実施、病院周辺清掃ボランティアの実施による地域貢献活動、外来待合ディスプレイや予約制の導入等による待ち時間対策、対外コミュニケーションの向上等、患者へのサービス品質が向上。

■コスト削減効果

- 事業者選定の結果、最終的に12.7%のVFMが達成されている。また要求水準で示されていない新たな業務が発生した場合でも、民間企業間の連携により、追加コストの発生を抑えている事例もある。これに加えて、病院内の市職員の人員削減も達成されている。これらの削減されたコストは、医師・看護師、医療スタッフの新規採用に係るコストに用いることも可能であることから、医療サービスの質の向上にもつながる効果がある。

■市／病院職員の意識改革

- 民間事業者の業務を継続的にモニタリングすることで、業務の改善に対する病院関係者の意識が高まるという効果が生まれている。特に、病院PFI事業では、民間事業者との協働により業務を行うことも多く、民間事業者の業務のモニタリング・評価を通じて、自らの業務を見直す機会にもなっている。

□ 課題

■適切な事業スケジュール設定

- 予め確定していた新病院の開院日程にあわせる必要があり、PFIの検討(可能性調査)を始めてから開院まで約2年の間に、スキームの構築、事業者の公募・選定、契約交渉、開院準備等を行うという過密なスケジュールであった。実質的な開院準備期間が1ヶ月超であり、PFIとしてのメリットを開院当初から生かすことが困難であった。

■継続的なサービスレベルの向上を目指すことのできる仕組みづくり

- 予算上の制約や、病院経営(収支)の向上とSPCの業務の直接的な相関性を見出すことが困難であるので、例えば、よいサービスを継続的に提供できている場合にはボーナスを付与することで、事業者の継続的なサービス向上を図るといったように、モチベーションを高める仕組みの導入が望まれる。